

2023年4月2日 受難主日礼拝説教

「死の姿を映す十字架」(マタイ27章1～56節)

○キリストのために背負わされた十字架

◎聖書朗読：マタイ27章32～56節

*神の子イエスが、あなたのため、十字架の上で血を流しながら苦しみ、死んでいかれた御姿を心に刻みつけよう。

今日のみことば：マタイ27章32節

「^{へいし}兵士たちは^で出て行くと、^いシモンという^{なまえ}名前の^{じん}キレネ人に^{であ}出会ったので、イエスの^{じゅうじか}十字架を^{むり}無理に^{かつ}担がせた。」

*キレネ：アフリカ北部のリビア領にあった植民都市

救い主イエスは、ご自身がつけられるべき十字架を担げて「されこうべの場所」(33節)を目指し歩いておられたが、その姿を見かねた兵士たちは、シモンに肩代わりをさせた。

問：イエスのための十字架を、まだ無理して負ってないか？

○あなたのためにあるキリストの十字架

「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」(マタイ16章24節)

神の子イエスが、わたしたちに「背負いなさい」と語られる十字架は、シモンの担げたものではなく、キリストが磔にされたままの十字架である。いつも、そこには、血だらけになって死なれた惨めな救い主の御姿が釘付けにされている。

☞神は、わたしたちの十字架を指して、「あなたも神の子を死に追いやった」と罪を示されるだけでなく、「この死によって、あなたは赦されている」との救いも告げられる。

「わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないため」(ローマ6:6)

※キリストの苦しみと死を現わす十字架は、わたしたちの欲深さや愚かさも映し出す鏡となる。十字架を心に刻むことは、絶えず〈何のよきものもない〉あなたと向き合いながら、ただ十字架により神の憐れみを願い続けること。